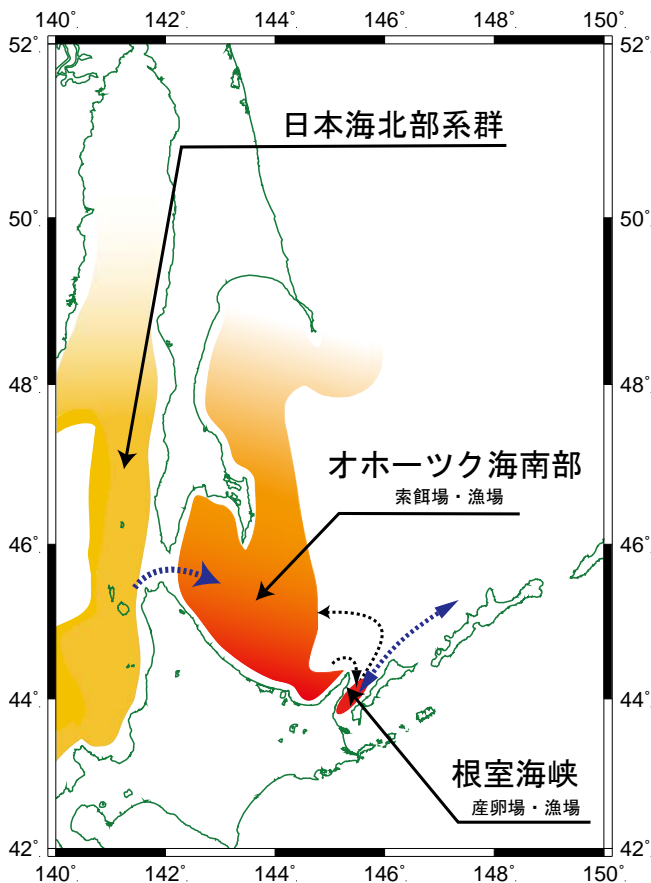




スケトウダラ根室海峡 平成27年度資源評価結果

1

分布・回遊・漁業



分布・回遊

- 根室海峡(産卵場)
- 若齢期の分布は不明

漁業特性

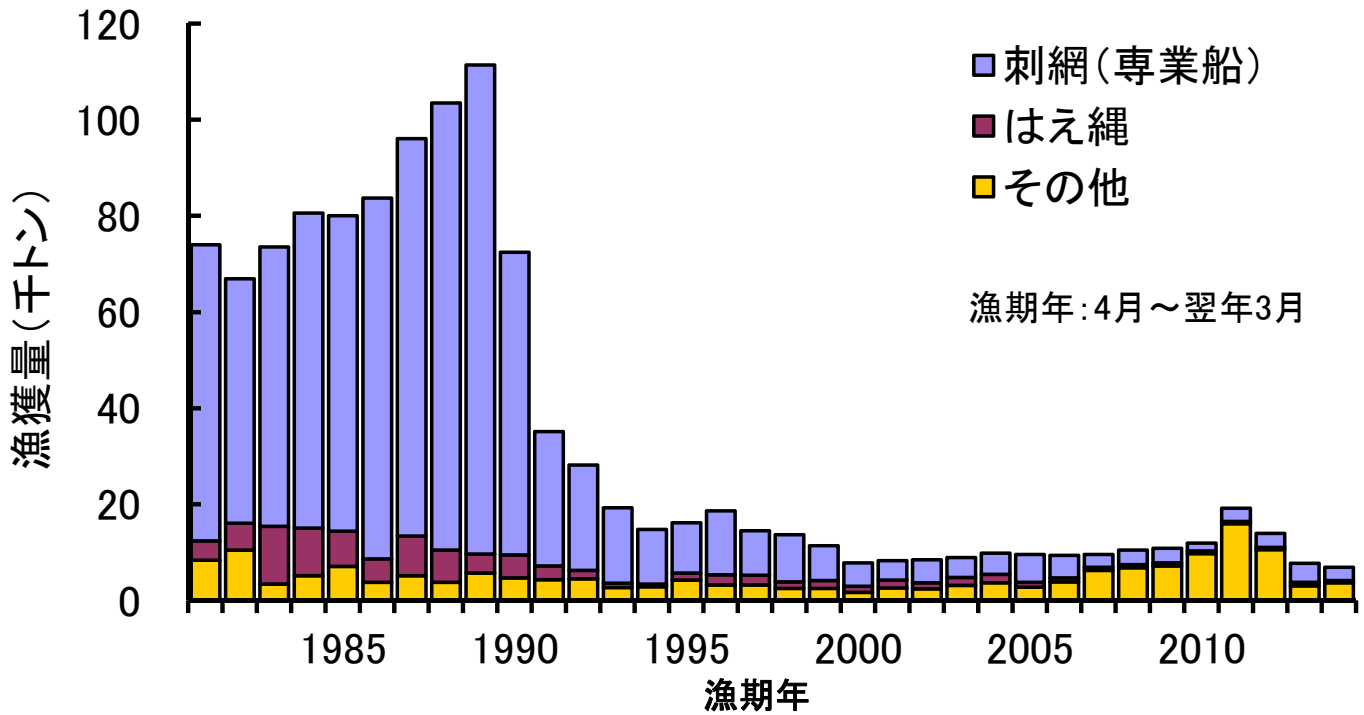
- 漁期:1~3月(産卵群対象・刺し網)
(近年は4~12月の漁獲が増加)
- 漁法:刺し網(專業船)、はえなわ
(近年は、その他刺し網が主体)
- 羅臼港への水揚げが中心
(2009年漁期より、その他地域増加)
- 沖底の操業はない

その他

- 隣接海域ではロシアが漁獲
- TAC管理を実施

2

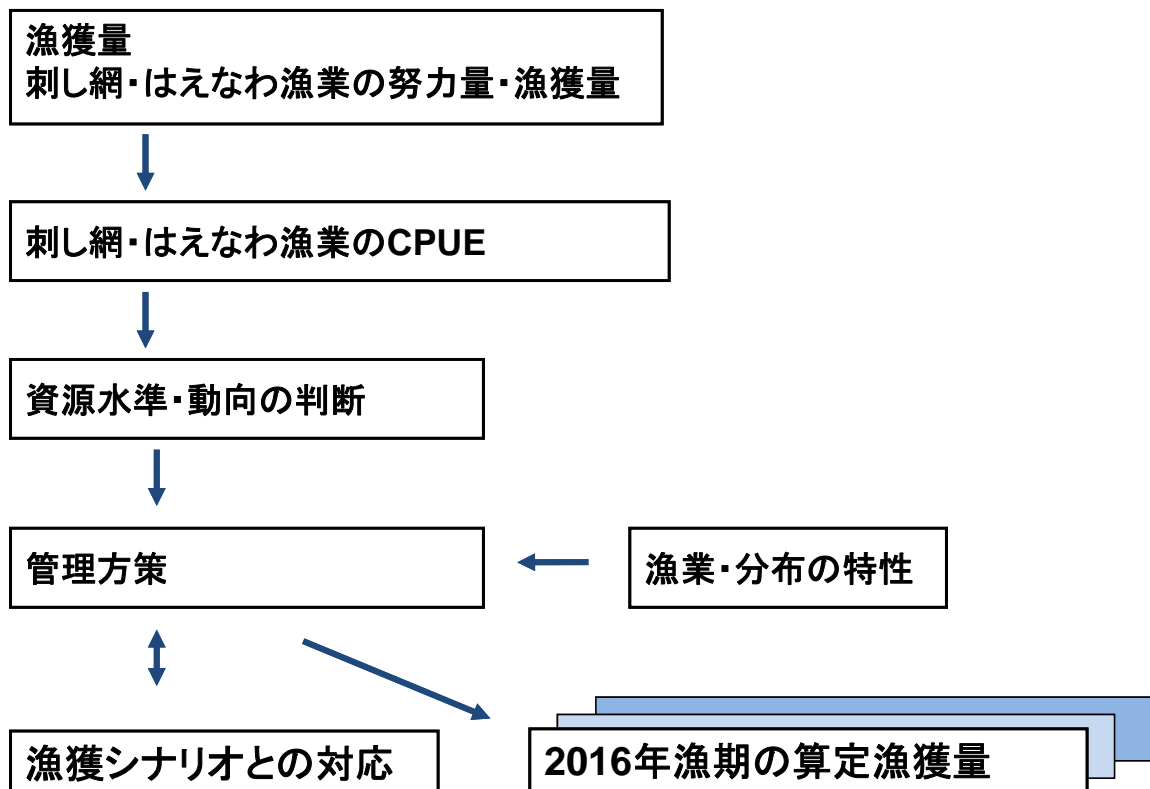
漁獲量の推移



- 1990年代までは、刺し網(羅臼・專業船: 1~3月)の漁獲が主体
- 2007年漁期以降は、その他の漁獲が拡大
- その他の主体は、專業以外の刺し網と定置網・底建網
- 2014年漁期漁獲量は、過去最低の6.9千トン

3

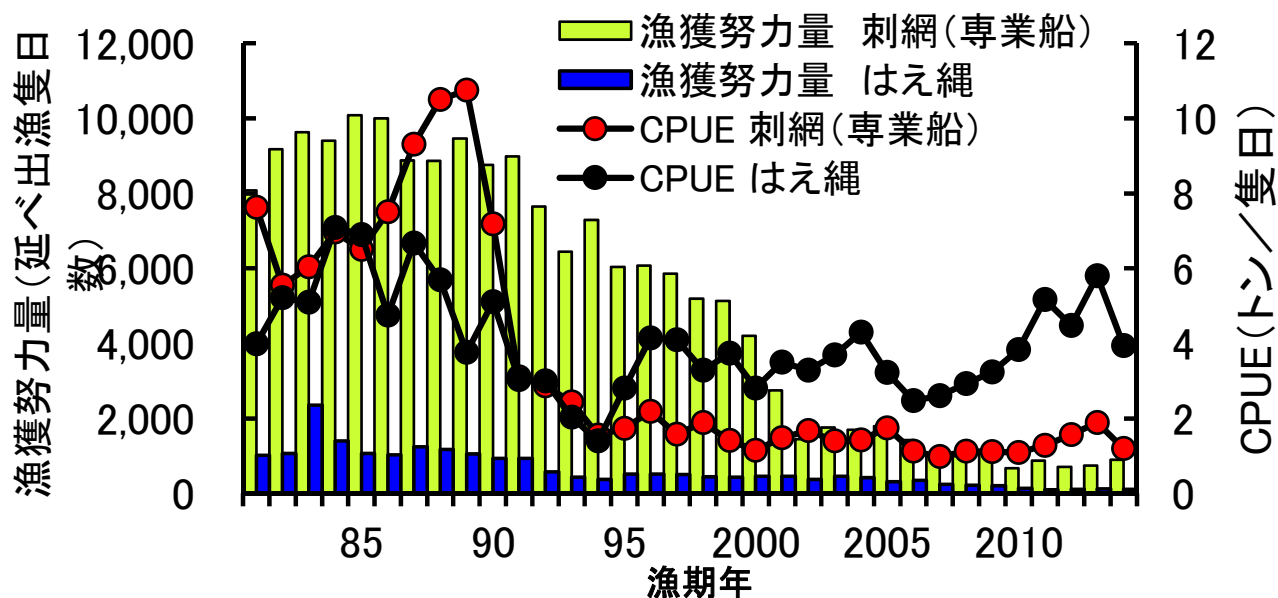
資源評価の流れ



*ロシアの漁獲に関する詳細な情報は不明であり、資源量やF値等の算定が困難であるため、ABC算定規則2-1)を準用し算定漁獲量を設定

4

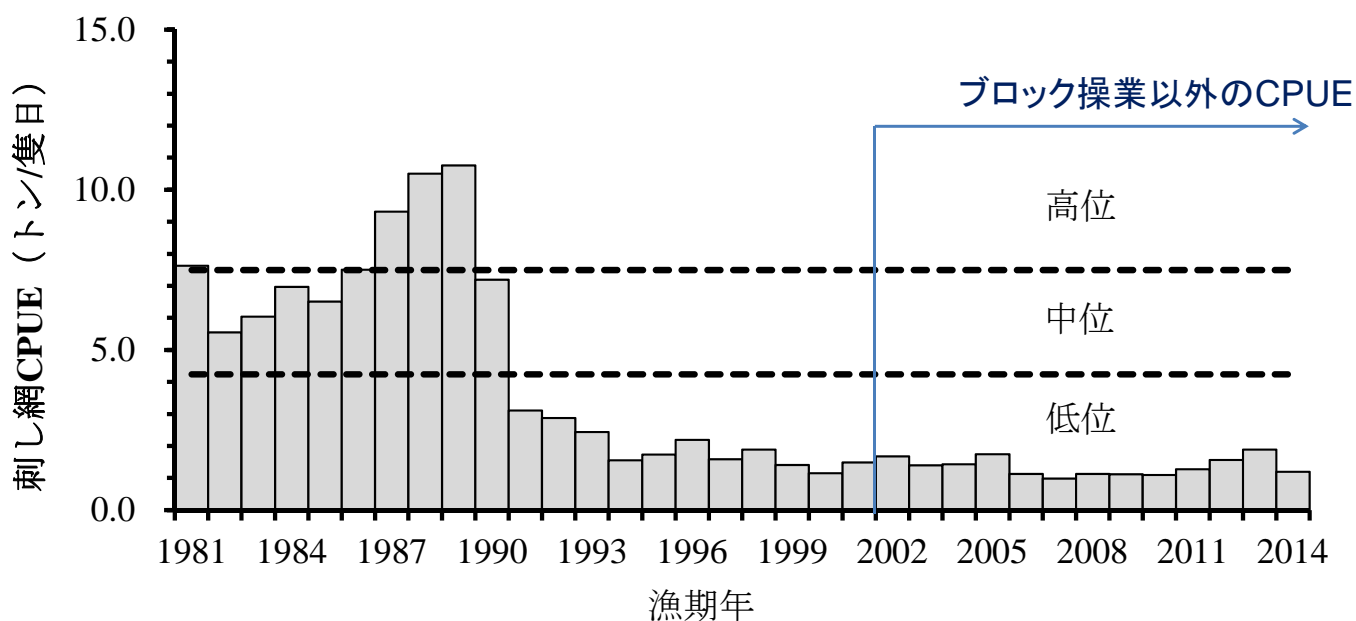
漁獲努力量・資源量指標値の推移



- 刺し網(專業)とはえなわの努力量は減少傾向
- 2014年漁期は、はえなわ、刺し網(專業船)共に過去最低水準
- 刺し網(專業船)のCPUEは1989年漁期をピークに大きく減少し、その後横ばいで推移している。
- はえなわのCPUEは、近年5年では増加傾向にある。

5

資源の水準・動向



- 刺し網CPUEで判断(2002年漁期以後は、ブロック操業以外)
- 1981～2014年漁期の34年間の最大値10.8(トン/隻日)と最小値1.0(トン/隻日)の間を3等分して高位・中位・低位に区分
- 2014年漁期の水準は低位・動向は横ばいと判断

6

資源評価のまとめと2016年漁期漁獲量の算定方法

● 資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は横ばい(昨年度:低位・横ばい)
- 資源評価に必要な情報は限定的であり、資源量推定や来遊量予測は困難

● 算定漁獲量

- ABC算定規則 2-1)

➤ $ABC_{limit} = \delta 1 \times C_t \times \gamma 1 = 0.7 \cdot C_{ave3-yr} \cdot 0.88$

$\delta 1$: C_t に C_{ave} を用いる場合の低位の標準値 0.7

C_t : 2012～2014年漁期の平均漁獲量 ($C_{ave3-yr}$)

$\gamma 1 = 1 + k(b/I)$ 、 b と I は刺し網CPUEの傾きと平均値(2012～2014年漁期)、 k は係数で 規則2-1)の標準値 1.0

● 管理基準

- 資源の状態に合わせた漁獲

7

2016年漁期算定漁獲量

漁獲シナリオ (管理基準)	Limit/ Target	F値 ($F_{current}$ との比較)	漁獲割合 (%)	将来漁獲量 (千トン)		確率評価 (%)		2016年漁期 算定漁獲量 (百トン)
資源の状態に合わせた漁獲 ($0.7 \cdot C_{ave3-yr} \cdot 0.88$)	Limit	—	—	—	—	—	—	59
	Target	—	—	—	—	—	—	47

8